

自発的教養科目の説明

自発的教養科目の目的

自発的教養科目部門は、学生の自律的な学習能力、及び実践的な能力を涵養し、リベラルアーツの実践を後押しすることを目的とします。

自発的教養科目の内容

自発的教養科目には、「自発的教養（ボランティア活動）」、「自発的教養（実践的研究活動）」、「自発的教養（地域課題実践活動）」、「自発的教養（実践的キャリア形成活動）」の4科目があります。いずれも、学内の教員の指導の下で、次のあらかじめ定められた活動を行い、その活動実績が要件を満たせば、単位が認定されます。

- ・「自発的教養（ボランティア活動）」を履修した場合、「ボランティア活動」（表1）の単位が認定の対象となります。

- ・「実践的研究活動」を履修した場合、「実践的研究活動」（表2）もしくは、定められた活動以外の「自発的活動」（専攻分野外の研究など）の単位が認定の対象となります。

- ・「自発的教養（地域課題実践活動）」を履修した場合、「地域課題実践活動」（表3）の単位が認定の対象となります。

- ・「自発的教養（実践的キャリア形成活動）」を履修した場合、「実践的キャリア形成活動」（表4）の単位が認定の対象となります。

認定される単位数は、「自発的教養（ボランティア活動）」、「自発的教養（実践的研究活動）」では、30時間程度の活動で2単位、15時間程度の活動で1単位、「自発的教養（地域課題実践活動）」では、30時間以上の活動で2単位です。また、「自発的教養（実践的キャリア形成活動）」では、60時間以上の活動で2単位です。

ただし、この時間数は一応の目安であり、個々の活動に応じて単位認定に必要な活動時間は異なることがあります。また、定められた活動以外の自発的活動を行う場合は、学期・年度を越えて加算することができます。（例えば、ある年度に15時間の活動を行い、その前の年度に15時間の活動をした場合、合計30時間の活動として申請することができます。）

なお、自発的教養科目の取得単位の上限は、各科目2単位の合計8単位です。

自発的教養科目の単位修得に必要な条件

自発的教養科目の単位を取得するためには、いくつかの条件が必要な場合があります。

例えば、「ボランティア活動」が「自発的教養（ボランティア活動）」として単位認定されるためには、教養教育科目「ボランティア理論」、または「ボランティアとサービスラーニング」の単位を修得しておく必要があります。

なお、「ボランティア理論」、または「ボランティアとサービスラーニング」の履修は、ボランティア活動の途中または終了後でもかまいません。

また、学外で行う活動で交通費などの経費は、原則として自己負担となります。その他、各活動に必要な条件は下の表1～4に書いてあります。

自発的教養科目履修の手順

- ① 興味を持った活動があったら、下の表の連絡先にある責任教員に連絡をとってください。
- ② 活動への参加が承認されたら、責任教員の指導に従い、活動を始めてください。
- ③ 活動を終わったら、「自発的教養活動証明書」、および活動内容と活動から何を学んだかをレポートにまとめた「活動報告書」を責任教員に提出してください。
- ④ 責任教員は、「活動報告書」を点検し、活動内容、活動時間等から「活動報告書」が単位認定に足るものだと判断した場合、「自発的教養活動証明書」に署名・捺印します。
- ⑤ 責任教員から「自発的教養活動証明書」、「活動報告書」を受け取り、「自発的教養活動単位申請書」に必要事項を記載し、教務企画課の共通科目担当者に提出してください。
- ⑥ 提出期限は、前期・後期ともにCNSでお知らせします。
- ⑦ 提出された資料に基づき、本学の自発的教養科目部門で総合的に判断し、単位認定が行われます。学生の皆さんは、履修申告をする必要はありません。

表1 ボランティア活動

テーマ・代表者	連絡先（責任教員）説明	単位認定の条件	備考
☆スポーツ教室等におけるボランティア活動 ☆加藤 朋之（教育学部）	加藤 朋之（芸術身体教育コース） tomo-kato@yamanashi.ac.jp 公開講座「エコールドゥスポーツ」での指導補助	活動時間： 実習 30 時間以上、 2 単位	1. 「ボランティア理論」または「ボランティアとサービスラーニング」の履修 2. 活動中の宿泊費等実費は個人負担 3. 対人賠償を含む学生保険の加入 4. 大学で実施している健康診断で健康であること
☆学部新入留学生に対するボランティア活動 ☆伊藤 孝恵（国際交流センター）	伊藤 孝恵（国際交流センター） takaiei@yamanashi.ac.jp 学部新入留学生に対する生活上及び勉学上の支援や留学生との交流活動を通じて、国際人としてのボランティア精神や異文化理解、異文化間コミュニケーションスキルの育成を図ることを目指す。	活動時間： 15 時間以上、1 単位 30 時間以上、2 単位	1. 「ボランティア理論」または「ボランティアとサービスラーニング」の履修 2. オリエンテーション、交流会への出席 3. 留学生との交流活動 4. 活動中かかる実費は個人負担（飲食や娯楽など） 5. 学生保険への加入

表2 実践的研究活動

テーマ・代表者	連絡先（責任教員）説明	単位認定の条件	備考
☆フィールド調査実習 ☆片岡 良太（生命環境学部）	片岡 良太（環境科学科） rkataoka@yamanashi.ac.jp 科学についての興味を喚起し、勉学へのモチベーション維持を目的とし、他大学の公開実習等への参加など、専門的教育・研究に触れる。	実習・事後学習： 30 時間以上、1 単位 60 時間以上、2 単位	1. 活動中の交通費・宿泊費等は自己負担 2. 対人賠償を含む学生保険への加入 3. 事後学習（報告会等）は必修 4. 平成 26 年度活動から認定
☆ロボコン ☆小谷 信司・寺田 英嗣（工学部）	小谷 信司（メカトロニクス工学科） kotani@yamanashi.ac.jp ロボコン参加に関わる技術研修、ロボットの開発、製作、大会参加	実習・講義： 60 時間以上、2 単位	1. 参加人数は 10 名程度に制限 2. ノートパソコンなどは自己負担 3. 主な活動場所：工学部機械工学科、メカトロニクス工学科研究室

☆統合能力型高度技術者養成プロジェクト「学大將」関連の実習 ☆垣尾 省司 (工学部)	垣尾 省司 (電気電子工学科) kakio@yamanashi.ac.jp 工学部が設定、運営する学大將プロジェクトのうち、マイハウスプランに属するキャリアハウス、ベンチャーハウスに登録された学生を対象としています。それぞれのハウスでの研究や起業活動を通じて、学生は技術者としての意欲と能力をいっそう伸ばします。活動内容はウェブサイト (http://www.eng.yamanashi.ac.jp/risu/index.html) で紹介している。 具体的な単位認定の基準・手続きは各担当教員に確認してください	実習・研究： 30 時間以上、2 単位	1. 参加者は活動中の交通費等実費の一部を個人負担する場合有り 2. 学生保険の加入
☆地域プロデュース・まちづくり ☆石井信行 (工学部)	石井信行 (土木環境工学科) nobur32@yamanashi.ac.jp 環境学園都市甲府を将来像として掲げ、市民や行政とコラボレーションしながらプロジェクトを立案・実行する活動において、学生は主体的に関わりながら地域プロデュースやまちづくりについて学ぶ。活動状況はウェブサイト (http://www.cec.yamanashi.ac.jp/~nobupdlabo/) で紹介している。	実習・研究： 30 時間以上、2 単位	1. 活動中の宿泊費等実費は個人負担 2. 学生保険の加入

表 3 地域課題実践活動

テーマ・代表者	連絡先 (責任教員) 説明	単位認定の条件	備考
☆まちづくりの実践 ☆大山 勲 (生命環境学部)	大山 勲 (地域社会システム学科) ooyama@yamanashi.ac.jp 本実習では、地域の住民・行政・企業と協働して、地域資源や課題を発見し、その活かし方や解決策の検討・実践を行うという一連の自発的活動の体験により、「まちづくり」のセンスと技法を学習する。それにより、地域はもとよりグローバルな場で活躍できる課題解決の実践的能力を身に着ける。グループ作業により体験的に学習する。	事前学習・実習・事後報告： 30 時間以上、2 単位	1. 参加人数は 10 名程度に制限 2. 活動中の交通費、宿泊費は個人負担 3. 学生保険の加入

☆ワインツーリズムの実践 ☆大山 勲・奥田 徹・久本雅嗣・斉藤 史恵 （生命環境学部）	大山 勲（地域社会システム学科） ooyama@yamanashi.ac.jp 本実習では、学生の自発的活動として、ワインツーリズムやまなしの運営への参加を通じて、地域資源を活かす地域活性化の取組手法の理解、地域課題や地域資源を発見する調査、実践活動への参加、課題解決策の提案、という一連の流れを体験的に学習する。それにより、地域はもとよりグローバルな場で活躍できる課題解決の実践的能力を身に着ける。	事前学習・実習・事後報告： 30 時間以上、2 単位	1. 活動中の交通費、宿泊費は個人負担 2. 学生保険の加入
☆フェーズフリーの具現化の実践※ ☆秦 康範（工学部） ・大山 勲（生命環境学部）	秦 康範（土木環境工学科） yhada@yamanashi.ac.jp 本実習では、学生の自発的活動として、フェーズフリー※の概念を理解し、その具現化を通して地域創生に関わる課題の発見と解決策の提案を行うという一連の学習により、問題解決の技術を習得する。それにより、地域はもとよりグローバルな場で活躍できる実践的能力を身に付ける。	事前学習・実習・事後報告： 30 時間以上、2 単位	1. 参加人数は 10 名程度に制限。グループで作業します。（3 名程度のグループでの参加も歓迎します） 2. 参加者は活動中の交通費等実費を個人負担する場合有り 3. 学生保険の加入
☆環境分析ネットワーク ☆風間 ふたば（生命環境学部）	風間 ふたば（環境科学科） kfutaba@yamanashi.ac.jp 本実習では、学生の自発的活動として、地域における環境分析ネットワーク関連事業への参加というケーススタディを通して、現状と問題点を理解し、課題を設定して解決策を探るという一連の学習により、課題の発見から解決へ至る調査・分析・実験・計画などの技術を習得する。それにより、地域はもとよりグローバルな場で活躍できる実践的能力を身に着ける。グループ作業により体験的に学習する。	事前学習・実習・事後報告： 30 時間以上、2 単位	1. 参加人数は 10 名程度に制限 2. 活動中の交通費、宿泊費は個人負担 3. 学生保険の加入
☆森林の継承と環境保全計画立案 ☆馬籠 純（生命環境学部）	馬籠 純（環境科学科） magome@yamanashi.ac.jp 本実習では、学生の自発的活動として、ユネスコエコパーク域などの森林管理の先進地域や森林問題発生地域を対象に事例研究を行う。対象地域の現地視察や関連事業への参加により、地域毎の問題点の理解、課題の設定、解決策の検討、計画立案という一連の流れを体験的に学習する。また、グループによる協働作業、議論、情報発信を通じて地域およびグローバルに活躍できる実践的能力を養う。	事前学習・実習・事後報告： 30 時間以上、2 単位	1. 参加人数は 10 名程度に制限 2. 活動中の交通費、宿泊費は個人負担 3. 学生保険の加入

<p>☆環境保全型農業技術の開発</p> <p>☆矢野 美紀 (生命環境学部)</p>	<p>矢野 美紀 (地域食物科学科) nakatam@yamanashi.ac.jp</p> <p>本実習では、学生の自発的活動として、地域における環境保全型農業技術の関連事業への参加というケーススタディを通して、現状と問題点を理解し、課題を設定して解決策を探るという一連の学習により、課題の発見から解決へ至る調査・分析・実験・計画・経営などの技術を習得する。それにより、地域はもとよりグローバルな場で活躍できる実践的能力を身に着ける。グループ作業により体験的に学習する。</p>	<p>事前学習・実習・事後報告： 30 時間以上、2 単位</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 参加人数は 10 名程度に制限 2. 活動中の交通費、宿泊費は個人負担 3. 学生保険の加入
<p>☆山梨の農業とその発展</p> <p>☆村松 昇 (生命環境学部)</p>	<p>村松 昇 (地域食物科学科) nmuramatsu@yamanashi.ac.jp</p> <p>本実習では、学生の自発的活動として、地域における農業への参加というケーススタディを通して、現状と問題点を理解し、課題を設定して解決策を探るという一連の学習により、課題の発見から解決へ至る調査・分析・計画などの技術を習得する。それにより、地域はもとよりグローバルな場で活躍できる実践的能力を身に着ける。グループ作業により体験的に学習する。</p>	<p>事前学習・実習・事後報告： 30 時間以上、2 単位</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 参加人数は 10 名程度に制限 2. 参加者は活動中の交通費等実費を個人負担する場合有り 3. 学生保険の加入
<p>☆農山村資源を活かした観光地域づくりの実践</p> <p>☆菊地 淑人 (生命環境学部)</p>	<p>菊地 淑人 (地域社会システム学科) ykikuchi@yamamashi.ac.jp</p> <p>本実習では、学生の自発的活動として、農山村に埋もれた地域資源を掘り起こし、磨き上げ、それらを観光地域づくりへ結びつけるという一連のプロセスを通じて、観光地域づくりに関する調査・分析、計画、実践等に関するスキルを主体的・自発的に習得する。それにより、地域はもとよりグローバルな場で活躍できる実践的能力を身に着ける。グループ作業により体験的に学習する。</p> <p><u>なお、令和 2 年度は鳴沢村（山梨県南都留郡）からの委託に基づき、「道の駅なるさわ」の施設改善計画立案を課題とし、現地調査・計画策定・関連事例調査の遂行及び地域における報告会等をおこなう（予定）。</u></p>	<p>事前学習・実習・事後報告： 30 時間以上、2 単位</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 参加人数は 7 名程度に制限 2. 活動中の交通費、宿泊費は個人負担 3. 学生保険の加入 4. 活動は土日及び平日夕方等（授業時間外）に実施するため、活動可能な相応の時間を確保できること

☆ICT の産業活用（センサネットワーク、スマートアグリ、高度植物工場、ハイク農業機械開発等） ☆美濃 英俊・鈴木 智博（工学部）	美濃 英俊（コンピュータ理工学科） mino@yamanashi.ac.jp 本実習では、学生の自発的活動として、地域における ICT の産業への活用の関連事業への参加というケーススタディを通して、現状と問題点を理解し、課題を設定して解決策を探るという一連の学習により、課題の発見から解決へ至る調査・分析・実験・計画などの技術を習得する。それにより、地域はもとよりグローバルな場で活躍できる実践的能力を身に着ける。グループ作業により体験的に学習する。	事前学習・実習・事後報告： 30 時間以上、2 単位	1. 参加人数は 10 名程度に制限 2. 参加者は活動中の交通費等実費を個人負担する場合有り 3. 学生保険の加入
☆エリア放送を活用したコンテンツ作成の実践 ☆郷 健太郎（工学部）・井坂 健一郎（教育学部）	郷 健太郎（コンピュータ理工学科） go@yamanashi.ac.jp 本実習では、学生の自発的活動として、地域における様々な活動取材してコンテンツを作成するというケーススタディを通して、現状と問題点を理解し、課題を設定して解決策を探るという一連の学習により、課題の発見から解決へ至る調査・分析・計画・提案などの技術を習得する。それにより、地域はもとよりグローバルな場で活躍できる実践的能力を身に着ける。グループ作業により体験的に学習する。	事前学習・実習・事後報告： 30 時間以上、2 単位	1. 参加人数は 10 名程度に制限 2. 参加者は活動中の交通費等実費を個人負担する場合有り 3. 学生保険の加入

※フェーズフリーとは、防災に関わる新しい概念で、日常時と非常時という社会のフェーズ（時期、状態）を取り払い、普段利用している商品やサービスが非常時に適切に使えるようにする価値を表した言葉である。

表 4 実践的キャリア形成活動

テーマ・代表者	連絡先（責任教員）説明	単位認定の条件	備考
☆CHANGE（社会改革プロジェクト） ☆大山 勲（生命環境学部）	大山 勲（地域社会システム学科） ooyama@yamanashi.ac.jp 澤 伸恭（地域未来創造センター） nsawa@yamanashi.ac.jp 杉山 歩（地域未来創造センター） sugiyamaa@yamanashi.ac.jp 栗田 真司（芸術身体教育コース） kurita@yamanashi.ac.jp 担当教員の指導の下、地域社会が抱える問題や自治体等の政策課題などについての理解を深め、地域との協働によりその解決方策を検討・試行する。	事前学習・フィールドワークへの参加： 60 時間以上、2 単位	1. 2～4 年生を対象 2. 活動費は自己負担 3. 学生保険への加入

☆FAAVO（クラウドファンディングによる事業創発等支援） ☆大山 勲（生命環境学部）	大山 勲（地域社会システム学科） ooyama@yamanashi.ac.jp 澤 伸恭（地域未来創造センター） nsawa@yamanashi.ac.jp クラウドファンディングサイト「FAAVO やまなし」を活用し事業化や社会課題解決等を目指す起案者に対して、プロジェクトのブラッシュアップやサイト作成、情報発信など、目標達成に向けた各種支援を行う。 それを通じて、事業化等に向けたプロセスを理解するとともに、目標達成に向けた課題解決能力や行動力を身につける。	事前学習・「FAAVO やまなし Mirai サロン※1」への参加・「FAAVO やまなし」起案者の支援 成果発表：60 時間以上、2 単位	1. 2～4 年生を対象 2. 活動費は自己負担 3. 学生保険への加入
☆CHALLENGE（創造的解決プロジェクト） ☆大山 勲（生命環境学部）	大山 勲（地域社会システム学科） ooyama@yamanashi.ac.jp 澤 伸恭（地域未来創造センター） nsawa@yamanashi.ac.jp 杉山 歩（地域未来創造センター） sugiyamaa@yamanashi.ac.jp 社会における様々なニーズに応えるためのプランの企画・実施を行う。プランは県内外で行われるコンテスト・コンペ等への参加、または実際の企画運営など実践的なプロセスを経て外部に発信する。 グループ活動を通して、問題発見やその解決に向けたアイデア出し、事業の具体化などの一連のプロセスを学ぶとともに、その実施に必要な分析力や課題解決力を身につける。	事前学習・実習：60 時間以上、2 単位	1. 2～4 年生を対象 2. 活動費は自己負担（大学コンソによる補助事業や、FAAVO やまなしの活用も検討） 3. 学生保険への加入

※1：「FAAVO やまなし Mirai サロン」は月 1 回程度開催し、プロジェクトのブラッシュアップに 2 回以上参加する。